

まちづくり推進検討委員会
ワーケーシヨップ
「賑わいのあるまちづくり」
- 分科会内容・全体討論議事録 -

日時：平成 19 年 11 月 5 日(月)

14:00 ~ 17:00

場所：大月市総合福祉センター6階

1. 分科会発表内容

第1分科会

座長	石井信行(作業部会部会長)
テーマ	賑わいのあるまちづくりにおける市民参加のあり方
サブテーマ	1. あなたが考える大月駅前にふさわしい賑わいのイメージはどのようなものでしょうか? 2. 新しい大月駅の駅舎をまちづくりに活かすために市民(あなた)ができることは何ですか?

発表内容

サブテーマ 1：あなたが考える大月駅前にふさわしい賑わいのイメージはどのようなものでしょうか？

- 駅周辺に人が住めるような場所、施設があれば全体の賑わいが向上する。
- ある程度、集中して商業施設(名物がある)をつくることで、人が訪れ、大月に住むようになってほしい。
- 人が集まりやすいように駐車場整備が必要。
- ユニバーサルデザインのまちづくりを目指す。
- 賑わいのイメージが確立されていない。

サブテーマ 2：大月駅新駅舎をまちづくりに活かすために市民(あなたが)ができることは？

- プラスのイメージで前向きな意見を出す。
- 外部へのアピールをする。
- 南口広場の開発を皮切りに賑わいをつくっていくことが必要。
- 大月には特徴がないため、大月で見たいもの、やりたいものを見つける。
- 一人一人の市民が自覚する必要がある。
- 無関心の人たちに市民参加まちづくりに出てきてもらいたい。

第2分科会

座長	和田之男(作業部会専門委員)
テーマ	親しみやすい街歩き空間づくり
サブテーマ	1. 大月らしい魅力的な空間づくりのデザインコンセプトは何ですか? 2. どのような人たちに街歩きを楽しんでもらいたいですか?

発表内容

大月の現状について

- ・ 車中心の生活で歩く機会がない。
- ・ 駅前はいつも車が多く、渋滞している。
- ・ 交通量が多すぎて歩くのはとても危険。
- ・ 車中心の生活では、駐車場が無い大月駅周辺に寄ることはない。
- ・ 養護学校のスクールバスが停まれるスペースがない。
- ・ 待機や休憩をする場所がない。

大月の理想と人が集まる空間について

- ・ 中心市街地に十分な駐車場があり、洋服や食品、生活用品が全て揃う場所があればいい。
- ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインの街づくりを行えば誰もが使い易い街になる。
- ・ 日本一きれいな公衆トイレがある街にしたい。
- ・ 大月の自然やのどかさを売りに来街者を呼びたい。
- ・ 駅前に少し休憩する場所を設け、やさしさを表現したい。
- ・ 大月の自然を感じる名所があるといい。
- ・ 「大月 大ツキ」でくじの神様を祀り、新たな名所づくりを行なう。
- ・ 夕焼け市場と大月市在住の芸術家との協働。
- ・ 大月市の市産材を活用してまちづくりを行う。

まとめ

- ・ 現状の大月は便利ではない。
- ・ 駅周辺の集客には、駐車場、安全な歩行空間、公衆トイレの整備が必要。
- ・ 来街者をより多く招くには、大月の歴史や文化など「お宝」を再発見し、特色を活かしたまちづくりを行うこと、また名物を新たに作ることが必要。
- ・ これからも機会を設けてまちづくりを行っていきたい。

第3分科会

座長	永岩尊暢(まちづくり推進検討委員)
テーマ	商店街・市民・学生による参加型のまちづくり
サブテーマ	1. 賑わいのあるまちづくりのための参加型の取り組みの中で、どのようにすればそれが定着し、長続きしますか？ 2. 参加・協働型の活性化策の推進母体は？どのような組織作りが必要でしょうか？

発表内容

サブテーマ 1：賑わいのあるまちづくりのための参加型の取り組みの中で、どのようにすればそれが定着し、長続きしますか？

- ・ バイパス整備によって交通量の減った国道20号を歩行者天国にして、定期的なイベントを実施する。
- ・ 一品イベントの実施や駐車場の案内等を行い、歩行者天国を頻繁なイベントとして定着さ

せたい。定期的に行うことで安定的な顧客が確保できる。

- ・ 歩行者天国は、平和通り・さつき通りではこれまで実施できた。イベントのインパクトとしては国道20号を歩行者天国化するくらいの勢いは必要。
- ・ イベントでは商店街及び農家など他の参加者が必要であり、ボランティアではなく、商売するつもりで参加する。
- ・ 公共交通しか乗り入れられないとか、環境に訴えた方法でイベントを実施する。
- ・ 「ひろさと村」の実施では、ギャラリーのイベントの時から少し変わり、ギャラリー目的のお客が来た。目的となる内容の作り込みが必要。
- ・ 大月市全体の中のいろんな宝と、中心市街地の賑わいを関連付ける。
- ・ 子供が商業体験をするイベントとして「大月キッザニア」を歩行者天国を利用して行ってみてはどうか。

サブテーマ2: 参加・協働型の活性化策の推進母体は? どのような組織作りが必要でしょうか?

- ・ 商店街組織や学生団体、高齢者などを中心とした新たな事業体をつくる。
- ・ 事業を行うため、コミュニティ・ビジネスなど新しい組織が必要。
- ・ 能力のある高齢者を含め、今ある色々な団体を核にして始める。
- ・ 出来るところからの仕事の中で、具体的な組織で継続していくことが必要。
- ・ 今回のような議論を継続的に行うことで、組織化等も具体化できるのではないか。

2. 全体討論

【委員長】

- ・ 3分科会の発表ありがとうございました。
- ・ 永岩先生に質問だが、第3分科会における歩行者天国のイメージはどのようなものか。

【永 岩】

- ・ 道路の使用許可等の話をしただけで、歩行者天国のスペースでの具体的なイベントの内容については議論していない。

【委員長】

- ・ またそのあたりについては後で議論したい。
- ・ 続いて、清水先生からご意見をいただきたい。
- ・ 清水先生は、本日第2分科会に参加されているが、これまで駅舎や広場のデザイン等に関わっており、駅周辺整備事業に熱心に取り組んでいらっしゃる。本日も、ワークショップにご参加いただき、ご自身が関わっているデザイン等に反映できるような意見が得られたのではないかと思われる。全体の発表をお聞きになり、どのように感じられたかをお聞きした後、討論に入りたい。
- ・ よろしくお願ひします。

【清 水】(デザインアドバイザリー)

- ・ 第2分科会では非常に活発に意見が出てきて、今回は聞き役に徹していた。いろんな収穫があった。
- ・ 他の分科会との共通事項は、まず駐車場整備が挙げられ、また買い物が楽しめる店が必要であるという2点である。これは車中心の地方都市では仕方のことである。

- ・ 私のイメージでは、それが大型のショッピングセンターではなく、街道のイメージを活かした、連なった商店等でなければならない。
- ・ 「大ツキ神社」という話が出たが、非常に傑作だと思う。
- ・ 私が最初に大月でイメージしたのは「大きな月が見られる」ということを売りにしたらどうかと考えた。月見の名所として、盛り上げ、良好な自然条件の中に陸橋を作ったりして満月の夜には皆が集まるようなイベントをしたらいいと思った。
- ・ 「大ツキ神社」は創ればいいと思う。全て守ることだけではなく、創ることも必要である。創った当時は不自然かもしれないけど、100年後には当たり前のように神様になっているかもしれない。これが文化を創っていくということで、こういったユニークな発想は非常に大事である。
- ・ 街の中にいいものがあるということで地図を見せていただいた。いろいろあって面白いと思うから、これを宝探しのように楽しめるマップがあってもいいと思う。
- ・ 景色がいいポイントを示したりして、街を歩くのが楽しくなるような仕掛けをつくると良い。
- ・ 街の宝探しを皆で行うと良い。街の皆が特に魅力に思っていない場合でも来街者にとってはおもしろかったりする。
- ・ 大月駅も含め、保存するという話は必ず出てくるが、今は新たに創ることも大事な課題である。

【委員長】

- ・ ありがとうございました。
- ・ コメントを聞いているだけで活力になる(前向きに考えてみようと思う)ようなご意見であったと感じた。皆さんはいかがか。
- ・ こうしたまちづくりは上手く行かず、難問が先に出てきて袋小路に入ってしまうことがあるが、清水先生が指摘されたように、住民が楽しいと感じるまちづくりができれば、来街者もそれを理解し、魅力的な街だという評価になる。
- ・ 何かを創ったり、昔からあるものを再発見したりするのは楽しんで行えるが、楽しさを生み出す中には当然苦労も多い。しかしその苦労を乗り越え、まちづくりが上手く行ったときには大きな喜びとなるので、こういったまちづくりを行えればいいと思う。
- ・ これは気持ち軽やかにまちづくりを行いたいという話である。
- ・ 次に技術的な話に移りたいと思う。
- ・ この全体会では、3分科会でそれぞれ議論されたことの発表が終わり、全体で議論するということになる。
- ・ 全体として魅力あるまちづくり、賑わい作りをどのような形で進めて行けば良いかも少し整理したい。また、今日の議論で出てきた意見をもう少し具体的なイメージにしていき、今後の問題として考えていくきっかけにできれば良いと思う。
- ・ 全体の分科会の発表を聞き、何か補足やご意見、ご感想を言いたい方はいるか。

【参加者】

- ・ 今の話の中には出てこなかったが、市内には深城ダムがある。
- ・ 深城ダムに行くのには電車とバスを利用すればいいので、少し遠いがアクセスは容易なので良い景勝地になるのではないか。
- ・ 観光客を市内に留めるためには、ホテルや、宿泊客が夜間でも買い物や食事を楽しめる場所があればいいと思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 大月を訪れる方は様々だが、ハイキング等でいらっしゃる方が大月の街を歩いて楽しんでいただくという話は先ほど出ていた。
- ・ また、駅周辺よりはもう少し広域的になるのだが、深城ダムや丹波山方面へ訪れる方々も大月駅を拠点にするという点では、そのような方々に大月駅周辺で宿泊していただく、あるいは日帰りであっても駅周辺で少し買い物を楽しんで賑わいの担い手になっていただいたらというお話だった。そのためには集客を捌く施設の整備が必要だと考えられる。
- ・ それに関連して第1分科会では駅周辺に集客施設を作り、来街者を誘致することも必要だが、北口の空閑地を利用し、定住者の誘致を行うことも必要だというお話があった。
- ・ その点について石井先生からもう少し詳しくお話をいただけないか。

【石 井】

- ・ 様々な意見があると思うが、住む空間としての大月駅周辺整備計画を成功させることで、駅周辺の住民が近場の商業施設を使うようになると考える。

【委員長】

- ・ 第1分科会の中ではまちなか居住という話が出た。第2分科会では集客の為の駐車場整備の話が出た。それから清水先生が指摘されたように何でも買い物できる場所の整備だが、これは大型のショッピングセンターではなく、街道をイメージした線的な商店の連なりをつくるという面白い意見が出た。その関連で、和田さんから事例紹介などないか。

【和田】

- ・ 私事ですが1999年に大月短期大学の地域ゼミに入り、論文を書いた。その中で住居の確保を取り上げた。北口に仮に住居ができたとしたら、たくさん住む人が居ると思われる。
- ・ 大月市内で雇用を確保するのは難しくても、東京都内まで1時間程度で行ける立地は魅力的であり、都内で稼ぎ、市内で消費してもらえば賑わいに繋がるのではないかと思う。
- ・ 写真で紹介することはできなかったが、昭島駅北口広場にはモリタウンというショッピングモールが中庭を囲み軒を連ねている。軒先も2mくらい出ているため雨の日でも買い物が楽にでき、中庭にはベンチもたくさん設置されていて、買い物客が非常に楽に過ごせる場所だと思った。
- ・ 大月に置き換えてみてもこのような仕掛けをつくれば賑わいができると思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございました。
- ・ 先ほど、各分科会の様子を見させていただいた中で、第2分科会の中では「やさしさ」を出したいという意見が出されていた。ちょっとしたベンチやバリアフリーなど、きめこまやかな街の空間作りを行うことで、来街者がほっとするような、安心、安全のある街をコンセプトにまちづくりを行うと、住民も楽しんで出来るのではないかと思う。
- ・ 続いて、説明に足りないもの、大月市においても取り入れたほうがいいものについてお聞きしたい。第2分科会の中で、魅力的な空間づくりを行うための案はあったか。

【参加者】

- ・ 登山客の方の多くが山、川、木材が大月の魅力であると感じている。大月の住民が魅力だと思っていないものが外部の方々には魅力であり、そのことに気付く事がやさしさへ繋がると思う。

【参加者】

- ・ 大月のトイレを日本一きれいなトイレにしたい。誰もが真似できないようなトイレにすれば目玉となると思う。

【委員長】

- ・ 世の中のニーズを知り、こういった大月らしさを作り出す仕掛けや、今まで気付かなかつた大月らしさを探していくことが大事である。
- ・ 第3分科会ではイベント等を含め、住民がまちづくりに参加し継続的に催しを行うには、どのような組織作りを行うかということをテーマに挙げていたのだが、永岩先生のご意見をお聞きしたい。

【永岩】

- ・ 現実的に持続可能な活動が行えるのは、商店街の方々だと思う。その中で市民参加はどのような形でできるかということも話題になっていたが、やはり中心は商店街の方々だと思

う。

- ・これについて今回は深い議論ができなかったが、その中には当然起業家としての学生や若年層の積極的な活動も関わってくる。
- ・大月市の高齢化について今回用意した資料では、大月市と人口・高齢化率が近似している島根県の松江市の事例を紹介した。そこではお年寄りにやさしいまちづくりが、自らが中心となって行われている。大月市も高齢化が進む中で、いかにしたらお年寄りがまちづくりに関わってくれるかを考えていく必要がある。

【委員長】

- ・ありがとうございます。
- ・組織作りというのはアイデアを事業として動かしていくためには大きな役割である。内容によっては組織体制が変わるので、具体的なまちづくりや魅力作りのメニューが絞られてきた時にそれに対応した形に変えていくことが大切である。
- ・大月らしさや大月のイメージを発見していくことが必要だし、無ければ創ってしまえという発想であれば楽しいまちづくりが出来ると思う。
- ・先ほど清水先生が「大ツキ神社」について 100 年後には神様になっているかもしれないと言ったように、街というのは人が歴史をかけながら創っていっているということである。同じように街の魅力も新しく作り上げていき、多くの人に受け入れられると賑わいになる。
- ・都市の景観だとかデザインを形成するのは 10 年かかるという。それが文化になるのは 100 年かかり、風土にかわるのは 1000 年かかるという。我々は 100 年も生きないが、人が定住し世代交代しながら継続的に住んでいくと、やがては文化となる。その文化の種(シーズ)となるようなものを今の人たちが楽しんで創っていくという心がけが必要である。
- ・まだ話し合いは始まったばかり。これから話し合いをしていくことが大事である。
- ・本日は時間が限られた中で、我々が分科会ごとのテーマを決めて議論を行っていただいた。
- ・お集まりいただき、テーマに即した形で議論していただいたのだが、他にご意見やご提案、問題等があれば意見をお願いしたい。

【参加者】

- ・大月市の多くの住民が大月市を良くしたいと思っているようだが、残念ながら駅周辺整備事業に関連した活性化について関心がある、あるいは前向きに考えている人は少ないのが実情である。
- ・私も地域づくりゼミナールに参加している。アンケートによると、市からの情報公開については、「努力の跡は見られるが、まだ不十分」という意見が 7 割くらいあった。
- ・ワークショップのタイミングに関しても、もっと早い時期に行ったほうが良かったし、開催時間は日中を避けるなど、できるだけ多くの意見を集める努力を行ったほうが良いと痛感している。
- ・ワークショップには大月駅利用者以外の方も参加しているのだから、駅前活性化について話し合い、意見を集めるのは困難だと思う。もっと努力すべきだ。

【委員長】

- ・ありがとうございます。
- ・また、まちづくり推進検討委員会でも本日のワークショップでのご意見は公開する。

- ・ 次のご意見をお願いしたい。

【参加者】

- ・ 本日は参加させていただきありがとうございます。
- ・ 私の娘は健康科学大学に行っていた。当時は大学が出来たばかりで、大学周辺は殆ど開発されておらず、下宿先のアパートを探すのも大変だった。娘の大学での学年が進むごとに、アパートや娯楽施設、居酒屋等の開発が進み、次第に賑わいが出ていった。
- ・ 大月駅においても、北口に住宅を誘致すれば人が集まり、商店街が活性化され賑わうのではないかと思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 他にないか。

【参加者】

- ・ 賑わい作りについて清水先生のユニークな発想でまちづくりを行おうというのは非常に良かったと思う。また、発想が沢山出てくるような状況を作るということが大事だと思う。
- ・ 今までに無い新しい発想を生むということと、大月市内の既存の魅力を再発見しようと努力をすることが大事である。
- ・ 大月市は広く、昭和の大合併から一つの市になりきれていない部分がある。大月駅以外の利用者が多いが、大月駅周辺は大月の顔としての中心市街地であり、住民には活性化させていくことに対する意識を持って、駅周辺が活性化することは良いことだと思ってもらわないとならない。
- ・ エコ・ヴィレッジ等、大月を良くしようとする方々と大月駅周辺整備とがうまく連携していけばいいと思う。
- ・ そのためには今ここに集まった人たちだけで議論するだけではなく、賑わいのための活動をされている方々や地権者の方々からの意見を集めることが大事だと思う。今日は話し合いの第一回目だが、限られた範囲での話ししか出来ない。
- ・ これから話し合いを継続させるためには、現在、駅前の賑わい作りに関して興味がない人を引き込むような仕掛けを作ることが必要である。
- ・ 駅前の開発についてさまざまな意見も出てくるかと思うが、市民全体にとって素晴らしいと思えるような駅前を作っていく話し合いを、これから継続的に進めていく必要がある。
- ・ そういった中で大月らしい個性や大月の特徴が出てくるのではないかと思う。一方、全く新しい発想も生まれてくるかもしれない。それらは共存し、時にぶつかることもあるかもしれないが、今日を出発とし、話し合いを進めていったら良いと思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ こういった話し合いは大月市民全員が参加できるような形で行うのが理想的である。今回のワークショップは一つのきっかけである。これをどのように継続していくかという点は、まちづくり推進検討委員会でも課題として議論していきたいと思う。
- ・ 予定していた時間になったが、今までのご意見だと、各分科会においてもご議論していただいたので、収穫のあったワークショップになったかと思う。

- ・ 事務局では皆さんのご意見を記録しているので、情報公開していきたい。
- ・ 時間になったので、これで全体討論を終了したい。
- ・ ありがとうございました。